

グループ経営改革について

1. グループ経営改革の概要

(株)三井住友銀行(SMBC)は平成13年4月の発足以来、新銀行としての基礎固め、すなわちシステム統合をはじめとする各種経営統合、合併効果の早期実現、業務改革等の推進スピードの加速など、いわゆる合併の「第一ステージ」を順調に終了することができました。そこで、次の「第二ステージ」では、商業銀行としての収益力をさらに強化するべく従来から取り組んでいる「業務改革」を遂行するとともに、SMBCの持つ有力グループ会社の潜在力を引き出し、商品・サービスと財務体質の両面のレベルアップを図る「グループ経営改革」を実行することにより「21世紀の新たな複合金融グループ」としての成長を図っていきたいと考えています。

(1) 最適グループ経営の実現

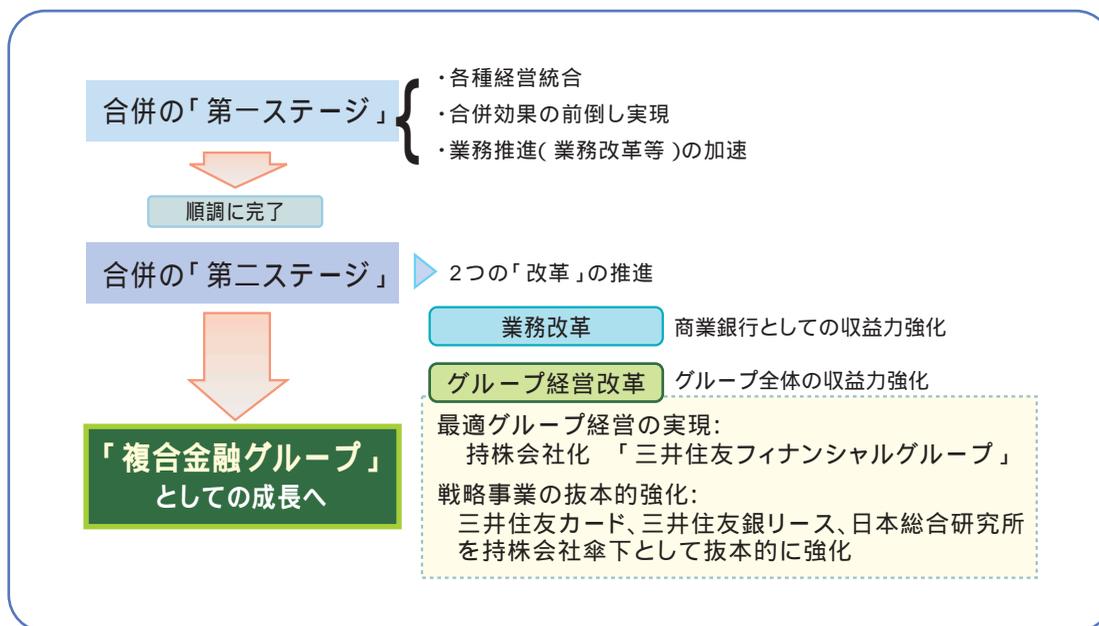
グループ経営改革を進めるにあたり、まず経営体制の最適化を進めます。そこで、銀行およびそれ以外の複数の事業を束ねる経営インフラに適した持株会社体制に移行することとし、(株)三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)を設立しました。持株会社体制の下、グループ戦略の立案・推進力の向上およびグループ会社ガバナンスの強化を図っていきます。この持株会社化によって、グループのさらなる発展に向けたプラットフォームが確立さ

れましたが、柔軟性・拡張性の高い経営組織を実現することで、今後の経営戦略の選択肢は大きく広がるものと考えています。同時に、持株会社化は、経営資源配分の最適化、組織の柔軟性・拡張性、リスク遮断という3つの大きな効果をもたらすこととなります。

(2) 戦略事業の抜本的強化

一方、グループ全体の収益力の向上、財務体質の強化を図るために、SMFG傘下のグループ会社を抜本的に強化していきます。SMFGの完全子会社となる三井住友カード(株)、三井住友銀リース(株)、(株)日本総合研究所については、まず各社のグループ戦略上の位置付け・責任を明確化したうえで権限委譲を推進し、経営の自主性を強化していきます。同時に持株会社傘下としての各種メリットを活用しながら、銀行および各社相互間のシナジーの追求、グループ内の経営資源の有効活用、積極的な事業拡充を図ることにより収益力の強化を図っていきます。また、大和証券(SMBQ(株))、大和住銀投信投資顧問(株)との連携もこれまで以上に深め、グループの総合力を強化していきます。

これらの取り組みにより、SMFGは、多様化・複雑化するお客さまのさまざまなニーズにお応えする複合的な金融サービス、商品のご提供にも努めていきます。

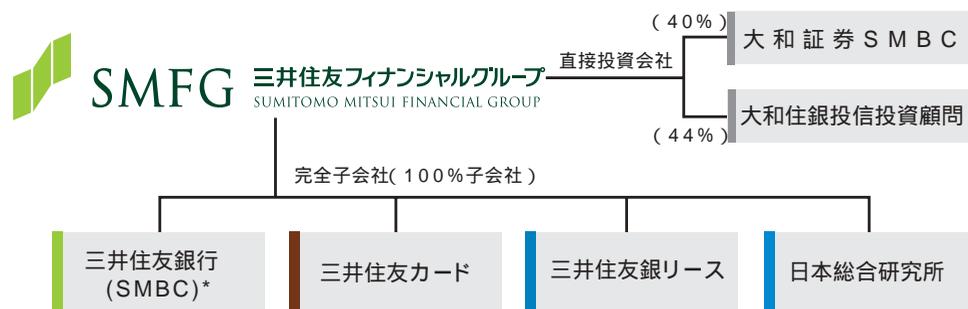


2. 三井住友フィナンシャルグループの発足

(株)三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)は、平成14年12月2日、株式移転により(株)三井住友銀行(SMBC)を完全子会社とする持株会社として設立されました。さらに、2月には、関係当局の認可を前提に、三井

住友カード(株)、三井住友銀リース(株)および(株)日本総合研究所を完全子会社化し、またSMBCの保有する大和証券SMBQ(株)、大和住銀投信投資顧問(株)の株式を引き継ぎ、SMFGが直接投資するかたちとなります。

三井住友フィナンシャルグループの体制 平成15年3月時点(予定)



* 三井住友銀行(SMBC)は、関係当局の認可を前提として、平成15年3月17日にわかしお銀行と合併する予定です。(わかしお銀行は平成14年12月時点でSMBCの100%出資子会社ですが、平成15年1月、SMFGの100%出資会社となりました。)

3. 三井住友フィナンシャルグループの組織・経営体制

(株)三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)を核に、コーポレートガバナンス体制、意思決定プロセス、経営資源配分スキーム、経営管理制度、人事・報酬制度等を整備し、合理性に立脚した統合的なグループ経営を実現していきます。

コーポレートガバナンス体制については、SMFGの取締役会にリスク管理委員会、報酬委員会、人事委員会を

設置し、取締役会がグループ全体の業務執行を監督する体制を構築しています。

SMFGには、グループ全体の経営戦略・経営管理、経営資源配分、財務、IR、情報システム戦略、グループ内幹部人事、リスク管理、業務監査等の機能を配置し、効果的・効率的なグループ経営の遂行に努めていきます。

三井住友フィナンシャルグループの組織図

